

発行者 久保田清一
 編集者 支部教宣部
 2012年 3月6日
 第67号

紋別・美幌 現地激励行動



女満別空港

JR不採用問題解決記念として2月25日27日にかけて田本広さん、吉田進さん、小林袈裟雄さん、喜多さんという、そうそうたるメンバーの一人として総勢22人で紋別・美幌へと行ってきました。「女満別はマイナス8度まで上がりました」とのCAさんの説明で最初はびっくりしましたが、空港へ清野さん、長縄さんがマイクロバスで迎えに



紋別闘争団事務所

清野さんより歓迎の挨拶と団員のそれぞれの状況が簡単に紹介され、長野からの参加者の簡単な質問や取り組んできたことが話されました。その後、交流会へと場所を変え、団員・家族9名が参加し、私たちが自己紹介をし、多くの胸の内を語りました。清野さんは「闘争団員にとってこれからの生活が



清野さんより歓迎の挨拶と団員のそれぞれの状況が簡単に紹介され、長野からの参加者の簡単な質問や取り組んできたことが話されました。

大変だが、あえて解雇を選んだことであり覚悟している。今年は20数年ぶりに肩の荷がおり平穏な正月を迎えられた。自分の経験をもどのように伝えていくのが自分の役目だと思っている」という話がされました。



ホテル前にあった流水です

田本さん、吉田さんは闘争団とつきあいが長いせいか今回の訪問で特に歓迎されていました。また、支援共闘喜多さんも最初から関わっており、失敗の話として「吉田さんと女満別からの機内で『北緯44度』の焼酎1本を飲み二人して記憶をなくした」とうれしそうでした。

二日目は紋別港より流



氷見学でガリンコ号に乗船。流水が来ない年が多い中で流水が見られて幸運でした。その後、バスに乗り込み2時間かけて今度は美幌へと向かいます。美幌峠より寒風吹きすさぶ中、屈斜路湖を見学。途中美幌駅へ。



美幌闘争団との交流会で団員と家族11名が参加し、長縄真由美さんは「闘争を始める時はこん

なに長くなるとは思わなかった。当時小さい子どもを3人抱えこれからどうするのか不安だった。お父さんは子育ては何もしてくれなかった。でも何も悪いことはしていないと子どもには教えてきた。長野に行ったときは吉田さんより『ここ2分間原稿なしで話して』と無理を言われたがいい経験でもあった」と話されました。



空港での感動的な別れを見て付き合いの深さを感じました。生活は大変でしょうが頑張っしてほしいと思います。今回このような貴重な経験をさせていただきありがとうございます。支部 鈴木